



第1086号

令和4年2月20日発行

URL <https://shinkyo.or.jp>
shinkyo@shinkyo.or.jp



公益社団法人 信濃教育会
長野市旭町 1098
☎ 026 (232) 2470
編集兼発行人 / 武田 育夫



第75期研修員座談会…6～8

信濃教育会賛助会員会入会案内…9

信濃教育会の事業についての会員アンケート報告…10～11

リレー通信 わたし自慢³⁰ サプリメントより効いてます
正村千香 (田中小学校) …11

100年館の絵 清水早知子 (西部中学校) …12

会員ひろば 上野直人 (白馬南小学校) …12

保育園の皆さんのために「窓ふきをしてあげたい」「窓をピカピカにしてあげたい」そんな願いを持ってお掃除のプロ、十字屋リースさんから真剣に学んでいる生徒たち。このあと、練習を重ね、技を磨き、地域へ出かけて行きました。(飯山養護学校)



令和3年度 新春対談…2～5

鉄拳さん / 武田育夫 (信濃教育会会長)

■ 信教発教育情報誌 ■

「Booklet 信教」から「実践のヒント」が見つかるかも？

新しくなった全県研究大会 (授業者・研究校の実践、共同研究者からのアドバイス)、
信教の行う研究調査、講習などから日々の実践のヒントになる情報を掲載します。
毎号1冊を各校へ配布していますので、ぜひ手にとってみてください。

- 発行月 令和4年5月～令和5年3月 (vol.120～126・全7冊)
- 問い合わせ先 研究調査部 026-232-2258
- 購読希望の方は申込チラシを4月に各校へ配布しますのでご覧ください。
(1冊300円)



芸人・パラパラ漫画家

鉄拳さん

×

信濃教育会会長

武田育夫



鉄拳 長野県大町市出身。芸人。パラパラ漫画家。1997年にお笑い芸人として活動をはじめ、2011年よりパラパラ漫画制作を開始し、昨年10周年を迎える。2012年イギリスのバンド MUSE の楽曲を使用した「振り子」が公式プロモーションビデオに採用され、世界各地で配信。2013年第42回日本漫画家協会賞特別賞を受賞。2015年フィギュアスケートを題材にしたオリジナル作品「SLIDE」を発表し、アジア最大級の国際短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル&アジア」にて話題賞を受賞。2013年「信濃大町観光大使」に就任し、2017年故郷・長野県大町市を描いた「きらり輝く」を発表。2013年信濃毎日新聞創刊140周年記念「家族のはなし」が、2018年岡田将生さん主演で実写映画化、2019年舞台化する。NHK 連続テレビ小説「あまちゃん」の劇中パラパラ漫画を担当、ディズニー映画「ベイマックス」のオリジナルストーリーが公式PVに起用、SEKAI NO OWARI「プレゼント」などアーティストPV制作、その他様々な企業や自治体の動画など、多くの作品を手がけている。YouTube「鉄拳パラパラ漫画チャンネル」では、パラパラ漫画作品を公開中。「鉄拳パラパラマンガうつすだけドリル」（主婦の友社）も絶賛発売中。「鉄拳パラパラ漫画チャンネル」 <https://youtube.com/channel/UCQJYGSTU6tXk0pC08b-IYbA>

武田 新春対談で鉄拳さんとお話をしたいという会員の声が多く寄せられ、今回それが実現できて本当に嬉しく思っています。早速ですが、鉄拳さんは小学校時代はどんなお子さんだったんですか。

鉄拳 絵が好きで、ずっと描いてましたね。ノートとか教科書に絵を描いていて、よく先生に怒られました。

武田 小学校時代の一番の思い出って何ですか。

鉄拳 やっぱ放課後。家が近くて3分くらいで帰れるんで、一度家に帰ってまた学校に行っただちと遊んでました。松の木が本当に多いんですよ。400本とか500本くらい。すごい数あって、そこでかくれんぼとかよくしてました。



武田 400本探すの大変ですね。（笑）

鉄拳 友だちとかかくれんぼして、あまりにも広いから見つからずに、鬼が探してくれずに終わったことがありましたね。ずっと待ってたんですけど誰も見つけれなくて。

武田 小学校時代は漫画とプロレスが好きで、興味があったそうですが。

鉄拳 はい。昔から漫画は好きで、実家が理髪店なのでお客さんに見てもらえるように週刊少年ジャンプがすごくいっぱい置いてあって、小学校1年からずっと読んでましたね。『キン肉マン』が好きで、単行本も揃えてました。

武田 プロレスや格闘技にも興味があったってことですか。

鉄拳 はい。ジャッキー・チェンとかブルース・リーとかブームの世代だったので、格闘技大好きでしたね。プロレスも好きで、毎週金曜日の夜に見てました。

武田 私がたぶん鉄拳さんより12、3年上なんですけど、私が高校1年生のときに『燃えよドラゴン』を見に行きました。次の日には校舎の中に鶏の鳴き声みたいな声が響き渡ってましたよ。

鉄拳 「あちょー！」みたいな声ですか？（笑）。やっぱりみんな影響されちゃうんですね。僕はヌンチャク買いました。

武田 （笑）それが小学校時代ですね。中学校は仁科台中学校ですよ。鉄拳さんの大町市PRパラパラ漫画には爺ヶ岳に登る場面が出てきますけど、登山はどこに登られましたか。

鉄拳 爺ヶ岳です。中学校のときに登った爺ヶ岳と、つい最近登った爺ヶ岳とは、やっぱりイメージが違って、今は道が良くて登りやすかったです。

ね。中学校の時は
すっごく苦しくて
大変だなあと思っ
たんですけど、中
学生って風景見な
いんですよ。持っ
てきたお菓子にし
か興味がなくて、
休憩のたびにラム
ネとかあめ玉を食
べて友だちと交換
していました。夜、
星空がきれいじゃ
ないですか。だけ



ど見てなかったんですよ。なので大人になってから
山に登って山の素晴らしさに気づきましたね。星が
たくさん降るようにありましたから。

武田 そうですね。仁科台中学校の50周年のときに記念
トークショーをされていて、生活記録は漫画を描いて
いたというようなことをおっしゃっていますね。

鉄拳 そうです。僕、文章がすごい苦手で、本当に何も
思いつかなくてうまく書けないので、その代わりに
絵を描いていたんです。「今日はこんなことがあり
ましたよ」というのを絵で描いて、日記で提出し
てました。武田光弘先生っていう担任の先生が美術
の先生だったのでそれでOKしてくれました。

武田 それはいい先生に出会いましたね。

鉄拳 めっちゃいい僕の一番最初の師匠です。漫画のこ
とも教えてくれたし、絵の描き方も教えてもらいま
した。それがなかったら僕は、漫画をここまでやっ
てなかったと思いますね。

武田 中学時代の一番の思い出って何かありますか。

鉄拳 中学時代は、やっぱり絵を描いてましたね。また
同じですけど(笑)。もう本当に絵ばっかり描いてま
した。

武田 鉄拳さんの中学の頃って、ボンタン履いてきたり
短ラン着てきたりとか、そういう時代じゃないです
か。それには興味はなかったですか。

鉄拳 『BE-BOP-HIGH SCHOOL』は、やっぱり影響
を受けましたね。『湘南爆走族』とか。ヤンキーが
モテるっていう時代だったんで憧れてましたね。

武田 憧れた。やっぱりそういう時代ですね。4年く
らい前に私が中学校にいたときに、ある子がボンタ
ン履いてきましてね。

鉄拳 え！今でもですか。

武田 もう懐かしいっていうか、「なんで履いてき

た」って怒るよりも、そのボンタンどうしたのかわ
かっていう興味の方が先でしたね。

鉄拳 そうですね。(笑)

武田 高校はどんな高校生だったんですか。

鉄拳 高校はちょっとガラッと変わって、バンドをや
てました。コピーバンド。ヤンキーやってるよりも
バンドやったほうがかっこいいっていうのがかわっ
て、BOØWYとかX JAPANとか、あとJUN SKY
WALKER (S)とかプリンセス プリンセスとか
やってました。

武田 ああ、いい時代ですね。じゃあ仲間とバンドを
やってる時間が長かったんですか。

鉄拳 長かったですね。本当に休みの日はだいたいその
メンバーと集まってバンドに明け暮れてましたね。

武田 そうですか。高校時
代に『週間ヤングマガ
ジン』のちばてつや賞
で、「期待賞」に入選
されたということですが、
どんな作品だった
んですか。



鉄拳 昔のお侍のヤンキーです。ヤングマガジンでヤン
キー漫画が多かったんですよ。『シャコタン☆ブギ』
とか『BE-BOP-HIGH SCHOOL』とか。それが一
番最初の投稿で、賞をもらって、漫画家になるのは
簡単だなあと思ったんですけど、2回目に送った作
品がまったく面白くないって言われて、そこから
ちょっと挫折しましたね。それで漫画から1回離れ
てしまって、プロレスも好きだったんで、プロレス
ラーになりたいなと思ってバンドをやりながらプ
ロレスの練習をしました。

武田 アルバイトなんかもやっていたんですか。

鉄拳 やってましたね。ボートもやったしコロッケ工場
もやったりしました。

武田 じゃあ、アルバイトとバンドと漫画とプロレスの
高校時代。それで大仁田厚さんのプロレス団体
FMWに高校の卒業式には出ずに上京して入られた。

鉄拳 はい。3年生の最後の学期の1月にプロテストが
あって、「2月から通えたら通えって」言われて。
高校の先生に相談して、2月の中旬からもう通っ
ていましたね。

武田 お一人で東京へ行かれて一人暮らしですよ。寂
しくなかったんですか。

鉄拳 もともと一人が好きだったんで、そこまで寂しい

とは思わなかったですね。最初の日、親父と一緒に来て荷物を置いていってくれました。親父が長野に帰って行く後ろ姿を見たときは、「ああ寂しいなあ」と思いました。でも、それより僕はもう突き進んで行こうっていうタイプだったので。

武田 プロレスは、実はレフリーとして採用ということだったみたいですね。

鉄拳 そうだったんですよ。他の人はちゃんとスパーリングとかやっているのに、「とりあえずお前レフリーやれ」って言われて。「ワン・ツー」っていう練習ばっかやっていて、ちょっとおかしいなあと思って聞いてみたら、「お前はレスラーとしてじゃなくて、レフリーとしての採用だったんだよ」って言われて、がっかりしました。



武田 それで半年くらいで長野に一度戻られ、今度は俳優になろうと再び上京されたんですね。

鉄拳 そうです。本当に何が何でも有名になりたいと思って、『デビュー』っていう雑誌の劇団東俳のオーディションの広告を見て、合格したらCMとか映画とかドラマとかにバンバンでれますよっていうのを鵜呑みにしてしまっただけで…。オーディションには合格して月謝を払いながら稽古したんです。でも「外郎売り（ういろうり）」とかやるじゃないですか。みんながすごく笑うんですよ。何で笑うのかなあって思っていたら、「お前は滑舌が悪いんだ」と先生に言われて、「滑舌が悪いのは俳優として致命傷だ」って言われました。それで諦めました。

武田 プロレスも俳優もどちらも挫折したって形ですよね。どんな気持ちだったですか。

鉄拳 次のことを探そうと思ってました。何かないかなって探してましたね。

武田 何かダメだと新しいことを考える、そういう考え方をされるんですね。

鉄拳 考えますね。「自分に通用するものは何だろう」ってすぐ探しますね。

武田 なるほど。それで笑いデビューということになるんですね。

鉄拳 そうです。ボキャブラ天国が当時流行っていて。お笑い芸人さんがすごくテレビに出ていて、お笑いライブでもすごくお客さんがいて、女性のファンが

すごく「キヤーキヤー」言ってたんですよ。それを見ていて、これしかないなと思って、オフィス怪人社に入りました。最初はロード・ウォリアーズの感じでメイクもマネしてたんですよ。厳つい格好で出ていって、これで滑舌悪かったら面白いかなと思ったりしながらネタを考えている時に、昔漫画描いてたんで、じゃあ絵のネタをやろうって決めてお笑いライブに登場したんですよ。

武田 スケッチブックでこんな何々は嫌だってというネタですよね。あの忍者のネタとか金魚すくいのネタとか面白かったです。見てました。結局好きな絵とか好きなプロレスラーで有名になっていくんですね。

鉄拳 そうです。いろんなことを経験して、自分が得意な分野のものを混ぜたら鉄拳ができて、それで笑いの舞台に立ったってことです。でも最初は受け入れられなくて。滑舌も悪いし、見た目も気持ち悪いから。女性のファンの方に気持ち悪いってよく言われましたね。

武田 でも奥さんはファンの方じゃないんですか。

鉄拳 そうですね。僕、出待ちがいなかったんで、唯一の出待ちが奥さんでした。

武田 よかったですね（笑）。それでその後、バラバラ漫画がヒットしていきますよね。『振り子』が大ヒット、『家族のはなし』が映画化ですよね。小さい頃一番なりたかったのが漫画家で、次がプロレスラーだったっていうお答えをいただきましたけど、結局回り回って漫画家になられたってことですね。

鉄拳 そうですね。最終的にはちょっと形は違ってパラパラ漫画の方ですけど、一番なりたかった絵を描く仕事に戻れたっていうのはやっぱり良かったですね。

武田 鉄拳さんのパラパラ漫画はとても素敵で感動的なものが多いと思うんですが、パラパラ漫画の魅力を鉄拳さん自身はどんなふうにお考えになっていますか。



鉄拳 手描きなのでアニメーションに比べてちょっと汚いんですよ。テレビで見るアニメーションで絵もきれいだし、色もついてるし、声も出てくるし、きれいなんですけど、パラパラ漫画っていうのは本当に風景も1枚1枚描かなきゃいけないんです。なのですごく微妙に動いたり雑に見えちゃうし、色を塗るところも、ムラができてるんです。だけど、そういうムラとかばらつきが、「すごくなんかいい」って皆さん言ってくれて、そういうところが良かったんでしょうね。

武田 1分間の漫画を作るのに最低360枚の絵を描くということが書いてありましたが、そうとう根気がある仕事なんじゃないですか。



鉄拳 そうなんですけど、なんですかね。夢中になっちゃうんで、時間が経つと辛いんです。8時間後とかに気がついたときにはもう体がボロボロなんですけど、絵を描いてるときって夢中なので、そのときは全然辛くないんですよ。

武田 やっぱり「好きなこと」ってということですかね。仁科台中学校の講演でも、「好きなことを続けていれば夢が叶う、実現できる」ということをおっしゃっていましたね。

鉄拳 そうですね。好きなことを続けるって別に仕事にならなくても、本当に趣味でもいいんですが、人生楽しいから続けた方がいいですよ。

武田 今、長野県から離れておられますけど、ふるさとの長野県あるいは大町の良さってどう感じていらっしゃいますか。

鉄拳 東京へ来てわかったんですけど、長野県って自然がきれいじゃないですか。東京から帰ったときに、一緒に来た友だちがめちゃくちゃ驚くんですよ、「こんな高い山あるんだ」って。「雲が山よりも下にあるじゃないか」って。それを見て改めて、あ、そうなんだなと思いました。僕は、営業とかで全国を回っていたんですけど、やっぱりあんな高い山ってないし、日本で一番山がきれいなのは長野だと思っています。

武田 とくに、大町はもう目の前が北アルプスですもんね。ある記事に将来大町で喫茶店を開きたいとありましたけどどうですか。

鉄拳 はい。喫茶店が好きなんで。大町市のどこかで喫茶店をやりながらのんびり暮らしたいなあっていうのは今でも思ってます。

武田 それはいつ頃ですか。

鉄拳 お笑いができなくなって引退してから…。いつでしょうかね。まあ70歳とかになったらやろうとは思ってます。

武田 ぜひ、私が生きてるうちに喫茶店を開いていただいて、コーヒーを飲みに行きたいと思います。

鉄拳 美味しいコーヒーいれますよ。

武田 最後にいくつかお願いしたいんですが、長野県の子どもたちに何かメッセージをいただけますか。

鉄拳 「好きなことを一生懸命やった方がいい」ってことです。昔はよく漫画読んでたら怒られたり、ゲームもやって怒られたりしましたが、今はそういう時代じゃないと思うんです。何が自分の天職になるかわからないので、やっぱり好きなことはずっとやっていたほうがいいってことです。

武田 長野県の先生たちに何かメッセージがございましたらお願いします。

鉄拳 もう「頑張ってください」としか言えないです。応援してます。僕も本当に子どもたちと接する機会が多くて、全然言うこと聞いてくれない子どももすごくたくさんいるんですけど、いろんな子どもがいると思って納得して接してます。いろんなこと言ってくるんですよ、子どもって。悪口を言うこともあるけど、子どもってそういうものだからと思ってます。成長していくのだから。

武田 これから芸能人として、パラパラ漫画家として目標は何かありますか。

鉄拳 とくに目標はないんですけど、本当にのんびりと、気楽に、生きようかと思ってます。で、何かチャンスがあれば、何かほしいなとは思ってます。賞とかね。作品を作って、でもそんなに固執なくて、作れたら作ろうっていう感じで、あまり自分にプレッシャーを与えないでのんびりやろうと思ってます。

武田 今日は本当に貴重なお話を伺えて楽しかったです。ありがとうございました。



・・・鉄拳さんからご紹介いただきました・・・

巨匠たちの10代～世界の巨匠たちが子どもだったころ～ 上田市立美術館／2月11日（金）～3月21日（月）

鉄拳さんが学生時代に描いたイラストに子どもたちへのメッセージを添えて展示。今まで世に出したことの無い、デビュー前の大変貴重な作品だそうです。 https://www.santomyuze.com/museumevent/kyosho10dai_2021/

研究所での学びについて語り合う

佐々木悠介
大原 央之

佐々木直人
竹内 均

土屋眞貴子
佐久間 拓

① テーマ研究会[※]から学んだこと

※各自のテーマについて、所長・特任所員・所員とともに研究する会

大原：研究所に来て、子どもの学びや自分の姿がどうであったのか、今までの実践や子どもとのかかわりを、ビデオや授業記録、学習カードをもとに振り返り、レポートにまとめてきました。そして、テーマ研究会では、まとめたレポートについて、佐伯所長や特任所員、所員、研修員の皆で、それぞれの見方から意見を出し合い、子どもの学びや自分の教師としてのあり方を見つめています。

佐々木(直)：僕は子どもとの関係づくりが気になっていました。当時子どもはどんな思いだったのか、子どもの言葉の裏にあるものは何かと考えました。しかし自分の立場から離れられませんでした。特任所員の高柳先生に「そう見てしまう先生の裏にはなにがあるのか」と言われ考えさせられました。

土屋：私は覚えやすい、わかりやすい授業を大切にしていたのですが、テーマ研究会で佐伯所長から「安易な暗記法などは、オペラートのように難しいことを包み込む教育道具になっていて、それに抵抗する方向に意識を向けてほしい」と指摘されてハッとしました。それが、私の授業を見つめ直すきっかけになりました。

佐久間：僕も佐伯所長からの言葉で、子どもの学びを振り返るときの視点が変わったように思います。研究所に入所した頃、僕は論理的な思考力をつけるための数学の授業について考えていました。佐伯所長からは毎回のよう「数学は論理がすべてではない」と言われていました。本当にそうかと振り返ると、確かに子どもは、定義や公理にあてはめて追求するだけでなく、問題を「具体」と結び付けて自分なりにわかろうとしていました。論理や客観的な正しさを押し付けるのではなく、その子どもなりのわかり方を大切にしたいと思うようになりました。

竹内：私は国語の授業を振り返る中で、自分の教材観・授業観が変わっていくのを実感しました。私は指導用教科書や指導書に頼り授業をしていました。テーマ研究会で、子どもはそれらをもとにした私のとらえに納得していなかったのではないかと思います、もう一度振り返りました。自分を問い直すうえで、私自身がもっと教材に向き合わなければならないことに気がきました。

佐々木(悠)：これまでを振り返ると、子どもに任せられない自分がいました。ある子が、総合的な学習の時間で、本の帯づくりを熱心に取り組んでいたのですが、私は「見る人のことを考えてほしい」という自分の思いにその子を寄せてしまっていました。子どもは、それぞれ思いをもって懸命に取り組んでいることがわかり、「本当にそれでいいのか」と自分を問い続けるのが大事だと身に沁みました。

佐久間：悠介先生のレポートを読んだとき、正直僕は「見る人のことを考えてほしい」もやっぱり大事だと思っていました。研修員同士で討議を深めていくと、それぞれの考えに納得できて、結局何が正しいのか結論は出ないのですが、僕の考えの幅は広がりました。結果的に、色々な子どもの思いを受け入れられるようになった気がします。

大原：私も研修員の仲間同士で学び合うことが、自分の姿をみつめるきっかけになったと思います。中学校での縦割り活動をレポートにまとめ発表した時、研修員の仲間から「自分の中にあるモノサシで学年毎の目指す姿を決め出し、『学年という枠』で子どもを見ていたのではないか」と意見をいただきました。その時、一人一人の子どもの思いに目を向けていない自分に気づき、ハッとしたことを今でも覚えています。学年という枠や子どもを集団で考えるのではなく、もっと一人一人の子どもの思いや願いに目を向けていくことの大切さを教えていただいたように思います。

佐々木(直)：実習で学



んだことも多かったです。僕は子どもの言動を素直に感じたいと思い、小学校の登校支援の教室に行きました。僕が子どもの話を聞き、子どもとのやりとりを楽しめたのは、研究所での振り返りがあったからだと思いました。1ヶ月の実習で子どもの言葉の裏にある思いを十分にはとらえられませんでした。テーマ研究会で意見をもらう中で、子どもが将来に不安を抱えていたり、学校で勉強しなければいけないと悩んでいたりしていることを感じました。

佐々木(悠)：私は、子どもの思いに寄り添いたいと考え、実習に臨みました。実習校では、ある子が、友だちとの関係をつくれずにいました。私はその子にどんな声かけや手立てがあるかと考えていました。振り返ると、私は結局自分の視点で考えているだけではないかと思いました。もっとその子の視点になり、一緒に悩んだり、取り組んだりすることが、支えになるのではないかと、それが寄り添うことなのかもしれないと感じました。

土屋：私は国語における ICT 活用について学んでいるのですが、ここに来る前は、ICT のことを ITC って言っていたくらい何もできなかったんですよ（笑）そんな私でも、長野市立長野中学校での参観や授業実践、信州大学で ICT の実際を学ぶことを通して、実習では、テーマである「対話が生まれ、学びの深まる ICT 活用」に近づくような授業ができるようになってきたと感じました。ICT を活用することで、主体的に学ぶ生徒を目の当たりにして、気付けば生徒と一緒に授業を楽しんでいました。

竹内：土屋先生が ICT を活用する授業について学んでいることで、私たちも ICT の活用について学ぶ機会をいただきました。県内の先進校に視察に行かせていただくと、思考ツールを活用して追究したり友の考えを知ったりと、タブレットでより深い学びをしていたこと、また、課題に対して一人一人が集中して活動していたことに驚きました。



2 様々な先生方から学ぶ講義

土屋：研究所では、講義を受ける機会が多くありました。所長講義は佐伯所長が指定した本を読んで、それについてのレポートを書いて、そこから佐伯所長と話をする形でした。

大原：佐伯所長の著書を読んだり、直接話を伺ったりする中で、子どもへの見方が大きく変わりました。今までは自分と子どもを切り離して傍観者的に見ていました。しかし、佐伯所長から「子どもを自分と切り離さ



ず、情感をもって感じ、子どもの訴えや呼びかけに応じていく」という「二人称的なかわり」や見方の大切さを教えていただきました。その見方で、今まで出

会った子どもとの関係を見つめてみると、その子が訴えようとしていたことが見えてくるんですよ。そこで、子どもの本当の思いに気付けなかった自分に気付くことができました。

佐々木(悠)：佐伯所長と直接一対一で話をさせていただいたから、各自の課題に沿って学べたと思います。以前の私は「できる・できない」という自己有能感でなく、「それぞれによさがあるんだ」という自己肯定感を、子どもも自分も味わっていったらなあと思っていました。しかし所長や特任所員の先生と直接話す中で「その子の視点になりきっていると、そもそもそこには自己有能感とか自己肯定感という見方は存在しない」と気付かされました。そういう視点で子どもの思いに迫ると、自分が作った評価的な視点ではなく、その子が直面していることを一緒に感じたり、考えたりできるのかもしれないと思いました。

土屋：佐伯所長だけではなく、松木先生、岩川先生、奈須先生、武田会長からも講義をしていただきましたね。

竹内：松木先生の講義では、「障がいとは、人と人との間にある」というお話をいただきました。今まで障がいは、その人個人の中にあるという考えがどうしてもぬぐい切れなかったんですけど、自分の考えを改めることができました。

佐久間：岩川先生の講義では、「○○力」の話が印象的でした。例えば、コミュニケーション力。「コミュニケーションは相手との間に起こるものなのに、今は個人の力の問題にしてしまう」と言われてハッとした覚えがあります。僕は、何でも「○○力」と言って、その力をつけるのが教師の役割だと思っていました。



土屋：岩川先生からは、子ども観、教師観の原点を教えてくださいました。中でも「並び見の分かち合い」という言葉はずっと心に残っています。教師が子どもと同じ視点に立ち、子どもに重心をおき、気持ちを分かち合う。この言葉を体現しようと思い、実習に臨みました。岩川先生に実習の様子をお伝えする会で、子どもとともに授業をしたことが楽しくて仕方がなかった



様子をお話すると、岩川先生が「教師のからだになっっている」とおっしゃってくださいました。少し理想に近づけたと、嬉しかったです。

佐々木 (直)：奈須先生には、講義だけでなく、指導に入られている学校に随行研修をさせていただきました。奈須先生と一緒に全学年の授業を参観しました。その時奈須先生が、子どもから少し離れて見ていたんです。理由を伺うと、奈須先生は「一人の子に寄っていくと、何でもよく見えてしまう。授業が教科の本質に迫っているかを見ていけないといけない」と教えてくださいました。

大原：一人の学びを見て、教師としての自分の姿を見つめることも大事なんですけど、その教科としての学びはどうであったのかも合わせて考えていけないといけないうことですよね。

竹内：武田会長からは、明治期からの信州教育を支えた先人たちの話を聞きました。信州教育の原点を知り、子どもを中心とした教育をこれからも大事にしつつ、よりよくしようと考えていける教育者でありたいと感じました。

③ これからについて

佐々木 (悠)：今までの振り返りでも、実習でも、私は、自分の視点で考えて、子どもを評価的にみていました。実習で出会った子から学んだのは、そうしたとら



われから抜け出す大切さです。その子の思いを見つめ、一緒に取り組む中で、初めて「寄り添い」ができてくるのかもしれないと感じました。まだまだ子どもの思いに迫れないし、色々なとらわれに悩む日々です。これからも、振り返りを大切にしながら、子どもと共に歩みたいです。

大原：私は過去の実践を振り返るだけではなく、早い時期から県内の中山間地域の小規模校で何度か実習を行いました。その時、対象に対しての思いや願いを異年

齢の子ども同士が分かち合いながら、学年や年齢を超えてつながり合う姿を目の当たりにしました。だからこそ、学年という枠や、自分のモノサシで子どもを見ていくのではなく、一人一人の思いや願いを感じ取りながら、子ども同士のかかわりをみていくことを大切にしたいと思います。

佐々木 (直)：僕は、実習で学級や教科の担任と違う立場を経験しました。今後、この経験を生かして、子どもの声を聞き、関係をつくり、子どもの思いに迫っていききたいです。

竹内：私は教材研究を丁寧に行って私自身の教材へのとらえをもち、そのうえで子ども一人一人の考えを受け入れながら授業を進めようと実習に臨みました。実習中は授業後には必ず、「自分の授業はどうだったのか」が浮かんできました。考えているうちに気になることが出てきて、もう一度子どもと考えたいと思えたことがあって、それは今までの私にはなかったことでした。少しずつ私が変わっているように感じています。来年度からは学校現場に戻りますが、子どもと教材を味わいながら一緒に考える授業をしていきたいです。

佐久間：僕は「具体」を大切に算数・数学の授業を行いたいと、小学校で実習をしたのですが、僕の思う「具体」にあてはめるように授業をしていたことが反省としてあります。その子どもが「具体」と感じられるものは何かを考えながら、今後、授業づくりをすすめていきたいです。

土屋：私は、引き続き国語における ICT 活用を実践していきたいです。ICT を勉強すればするほど、好きなタイミングで調べたり対話したりする、「個別最適な学び」や「協働的な学び」といった視点も見えてきました。何より子どもが主体となり、夢中になって学習できる可能性を大いに感じています。私も理論を学んだばかりで、実践はまだこれからですが、先生方と一緒に ICT の実践を積み重ねながら、生徒主体の授業づくりをしていきたいと考えています。

竹内：みなさんの話を聞いていて思ったのですが、子どもの思いを感じ、寄り添っていくことが一番大切ということですね。研究所での研修もあとわずかですが、ここで学んだことをこれから発揮していくことが私たちの使命ですね。

入会のおすすめ

「信濃教育会賛助会員会」

～退職後も信教とともに学び続けましょう～

長年教職にあり、本県教育文化の向上発展にご尽力くださいましたことに対し、心から敬意を表します。信濃教育会賛助会員会は、長野県教職員として勤務し、退職した方全員が、職種・職階の別なく入会でき、手を取り合って研修に努め、賛助・親睦・助け合いを願って活動している団体です。令和3年度退職または退職予定の先生方には、その意義をご理解いただき、入会くださいますよう心からお願い申し上げます。（なお、退職後、再任用や市町村教育委員会等教育関係機関へ勤務される方は信濃教育会への再入会をお勧めします。）

信濃教育会賛助会員会とは

【会の目的・内容】

信濃教育会・郡市教育会事業への賛助、会員相互の研修親睦、長野県教育の振興発展に寄与

1 長野県教育に関する諸問題の解明と世論の喚起

- ①教育問題検討会（代議員・本部役員で構成）
- ②信教との懇談会
- ③信州“教育の日”（構成団体として参加）

2 地域における生涯学習の環境整備と推進

- ①郡市教育会の事業を賛助
（夏季大、同好会等への参加等）
- ②郡市賛助会員会活動の充実
（地域研修、実技講習、郡市教育会との懇談、会報発行、学校現場へのボランティア等）

3 公益社団法人信濃教育会の事業への賛助

- ①総集会への参加（開催地会員を中心に）
- ②生涯学習センターの運営と活動への賛助
- ③雑誌『信濃教育』『学事関係職員録』の購読、購入促進

4 会員相互の研修・厚生・連絡

- ①総会（講演会・郡市活動報告・会員作品展）
- ②会員名簿発行
- ③会報（年3回発行）
- ④県内研修視察旅行
- ⑤女性会員の集い
- ⑥弔意（弔辞奉呈・会報に弔意掲載）

【会員の資格】

信濃教育会会員だった人、ならびに会の目的に賛同する人

申込みについて

1 入会の申込み

「信濃教育会賛助会員会入会申し込み」はがきを4月1日（金）までに、入会したい郡市の賛助会員会代議員宛てにお出しください。

入会されない場合も必ずお出しください。申し込みはがきおよび郡市賛助会員会代議員名簿等は、後日各人宛てにお届けします。

※なお、信濃教育会事業への賛助ということから雑誌「信濃教育」の購読および「学事関係職員録」の購入募集もあわせていたします。

2 会費

令和4年度は前年度の余剰金の補填により年額2,500円

3 会費納入方法

後日、本会会報送付の際、振替用紙を同封しますので、郵便局から振り込むか、郡市役員へ納入してください。

4 会員の特典

- ・本会会報（年3回発行）・会員名簿の送付
- ・県内研修視察旅行への参加
- ・信濃教育会報（総会報告掲載紙）・信濃教育会事業案内の送付
- ・信濃教育会主催の講演会・講座への参加（無料）

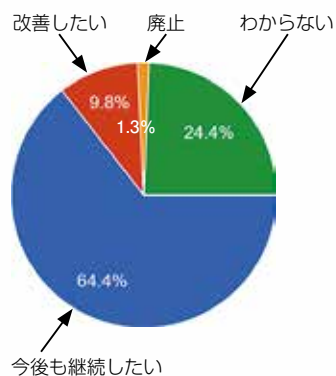


研修視察旅行（上伊那 人と大地の歴史）

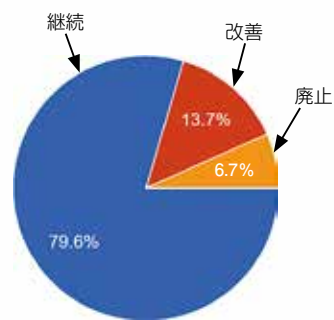
信濃教育会の事業についての会員アンケート報告

各郡市教育会より推薦された92校（小51，中32，特5，高4）の会員1,301名の皆さんに実施し、951人（回答率73.1）の方から回答をいただきました。今年度は、回答や集計の負担を減らすために、インターネット上で行いました。ご協力をいただき、ありがとうございました。その結果の一部をお知らせします。

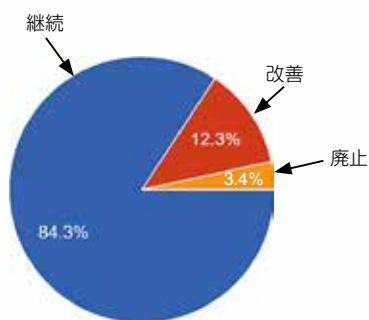
自主的校内研修補助事業・短期視察研修補助事業について



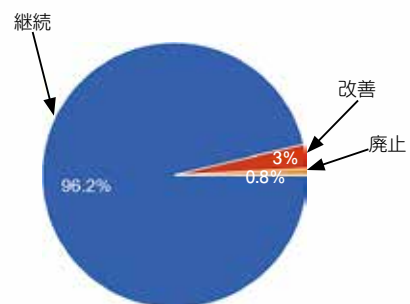
教育研究論文・教育実践賞について



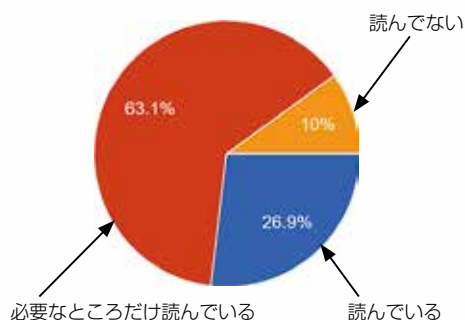
今を生きる子どもの絵展について



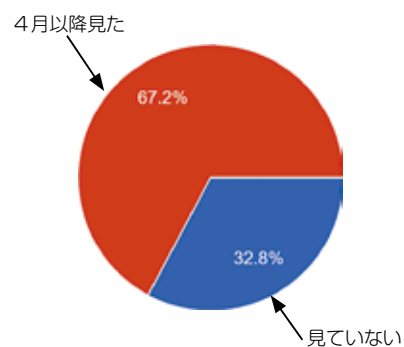
災害見舞金事業について



信濃教育会報について



新ホームページについて



○研究調査事業について 今後必要だと考える研究調査活動についてのご意見（抜粋）

- ・年々増えていく感じのする発達障がいの子どもたちの、支援を通常の学級の先生方がもっと出来るようなプログラムを継続的に進めて欲しい。障がいの名前は知っていても支援が出来ないという先生が多い気がする。
- ・教員側がICTを気軽に使いこなせるような研修を増やしてほしい。端末だけ入れておしまいではなく、具体的なアプリの使用法等をきちんと学べる機会が欲しい。

○講習講座について 開催してほしい講習・講座についてのご意見（抜粋）

- ・教員経験10年，15年，20年向けの，リーダー講習

・自己教育力をたかめる講習や講座（人生を豊かにする，自己啓発）

○自主的校内研修・短期視察研修についてのご意見（抜粋）

- ・校内研修に有意義に使用させてもらっている。今後もぜひ継続していただきたい。
- ・申し込み手続きの簡素化 研修内容の多様化

○教育研究論文・教育実践賞についてのご意見（抜粋）

- ・実践の励みになり，また会員の意識の高揚につながる。
- ・良い実践をさらに周知する活動が必要

○信濃教育会総集会についてのご意見（抜粋）

- ・オンデマンド配信は，よいアイデアだと思う。当日，参加できない方にも総集会を知っていたいたり，貴重なご講演や会員の発表を聞いていただけたりする機会になる。
- ・コロナ収束後，再開，オンラインのハイブリッドで

○全県研究大会の運営，研究の進め方についてのご意見（抜粋）

- ・教育課程研究協議会との明確な差別化と方向性の明確化
- ・来年度の方向性は新しい試みなのでどうなるのか関心があります。

○信濃教育会の運営等についてのご意見，ご感想（抜粋）

- ・不易な部分は不易なものとして大切にしたいが，若い年代から中堅層にかけての価値観の多様化や多忙感に沿った改革をしていく必要があると思う。
- ・昨年から今年にかけて大きな改革を進められていると感じる。改革が必要な時，絶好のタイミングだと感じる。

信濃教育は，会員自らが創り出していくことをこれからも大切にしていきたいと思います。



わたし自慢 ③〇

サプリメントより効いています



田中小学校 栄養教諭 正村 千香

「今日はききんしゃもでしょう？」「ききんしゃも楽しみ」配膳室に元気な声が響きます。「すみません。まだ読み方習ってないんですよ」と担任の先生の解説でやっと「黄金しゃも」に気づいた私。今日の献立は県から食材提供された，信州黄金シャモの油淋鶏です。1年生は「ききんしゃもおいしかった」とききんしゃもダンスを踊ってくれました。5年のA君も「僕ね，ささみのレモンあげより好きかも」と教えてくれたので，「味よくわかってるね，舌が肥えてるじゃん。いつもこんなおいしいもの食べてるの？」と返したら，「えへ，僕のおとうさん元板前だからね」とにっこり。こんな会話ができるのは，田中小学校が自校給食だから。だから，子どもたちは回転釜を洗っている調理員さんと「いただきますーす」「どーぞー」とあいさつできたり，「今日何作ってたの？3時間目超いい匂いがしてきて，

おなかすいてやばかった」と言えたりします。残さいの様子を見ている私に「残すんだったら僕たちのクラスにほしかった！もったいないよね」とか「今日は残り少なくて良かったね。まっ，僕たちのクラスはいつも残りゼロだけど」なんて声がかかることや，「この献立の組み合わせ無理だった！手かかりすぎ。今日こそ間に合わない！」などの危ない橋も明るくて手際のいい調理員さん達に無事渡らせてもらえることも日常茶飯事。だから，サプリメントより元気が出る，私の自慢は自校給食の田中小学校です。



予告



信濃教育
3月号

テーマ
安全・安心な学校づくり

指導者
清水早知子（西部中学校）

100年館の総

令和2年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵

中学校に入学して、新しい友だちと新たな関係を築く間もなく、新型コロナウイルス感染症予防のため臨時休業になってしまった令和二年度四月。六月に学校再開となり、久しぶりに登校できた子どもたちは、友だちと再会できる喜びにあふれているようでした。この作品は、そんな状況下、中学校で初めて出会った友だちを描こうという課題で制作した作品です。互いを描

くためのペアをつくることから、それは嬉しそうに活動していました。毎年取り組んでいる題材ですが、今年ほど楽しそうに制作できた年はないように思います。癒海さんは、ペアとなった友だちの優しく微笑む表情がでるようになんて描いていました。描きたい気持ちを大切に、対象をよく見て描くことで記念に残る一枚が仕上がりました。



「美人で優しい友だち」
宇都宮癒海（西部中一年）

信濃教育博物館所蔵

会 員 ひ ろ ば

学校のために自分たちができること！！

今年度の総合的な活動の時間では、「オリジナル商品を作り、売ろう」と児童と話し合い決めました。活動のきっかけは、PTAの役員の方々から新型コロナウイルスの影響によりバザーで、裏山スキー場の維持費を集められなくなったこと、SDGsの視点から校舎の一部に断熱材を入れる断熱工事というものがあることの2点を聞いたことでした。「自分たちの学校だから最後の1年でできることをしたい」という思いをもち、商品、金額、デザイン、売る場所、オリジナルキャラの作成など様々なことをみんなで考えました。商品は、多くの場所で売れることになり子どもたちも大喜びでした！また、多くの方の支援を受けて写真のような断熱工事も行うことができました。今回の活動は、将来にも役立つとても有意義な活動になりました。ぜひ白馬に来て、児童が作った商品を手にとってみてください。

（白馬南小学校 上野直人）



教職員川柳

中高年 ついていけない ICT
四肢の筋 痛気持ちいい ストレッチ
宿題を 出しているけど できないな
給食は 学校一の 笑顔の場
（みどりババ）
（だるま）
（四蔵法師）
「要配慮」 聞きたび悩む 「どう配慮？」
（二休さん）
（青クリリン）

ご応募お待ちしております。

投稿はメールでお願いいたします。kaihou@shinkyo.or.jp

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。

